

全佛通信

六月号
発行所 財団法人 全日本仏教会
東京都中央区築地三ノ一(本願寺内)
電話 640-0323
振替東京 35700
発行人 栗本俊道
編集者 別所弘因
印刷所 ルンビニ社

参議院選挙に 仏教代表の進出を望む

参議院選挙も目前に近づいて来た。最近内外の諸情勢を見るに、科学、経済の発達に伴って人間社会の表面は華やかに見えるのに比べて、反面の精神面の弱体と危機は、人命軽視、交通麻痺、精神障害者、青少年の犯罪を激発し、我々仏教者の奮起すべき問題は山積している。これらの社会悪の浄化はひとり宗教者や教育者だけの力のみによって解決されるべきものではなく国家社会の繁栄を来たす所の政治力の上にも強く打出してやらねばならない。即ち精神生活と物質生活のアンバランスを均衡化する為には宗教家と政治家が表裏一体となって努力することが望ましい。

これらの理想を実現するために良識と信念ある数多くの仏教系議員を議場へ送ることである。現代の混乱せる不安な社会は健全な仏教的信念ある有能な人々が輩出し現行政治の欠陥を補うべく努力するところにおのずと浄化されて来るものと確信している。それがとりもなおさず、仏教の理想境で

ある姿婆即寂光土なのである。この意味において左記に列挙した方々は有能な仏教系の候補者として出馬が予想されているが、願わくば全仏教徒が公明選挙の線に添って応援されることがつよく望まれる。

安部 法俊 (本名日出生)



弘法大師信仰による社会救済事業に挺身し、現在たい廃してある道徳思想の復活を次の世代の青少年の教育に力を注ぎ、国民思想と政界の浄化を願いつつ、全国行脚を つづけて います。松葉杖の布教師として有名であります。

宗教政策

- 一、高野山真言宗本山布教師として今日迄十余年間祖風宣揚、社会浄化、人命の尊重、社会道徳教化向上、並に養老及保育等社会福祉事業の振興に全身全霊を傾注。

略 歴

- 一、明治四十二年 大分県宇佐郡安心院町に生る
- 一、昭和九年 東京警視庁警察官
- 一、昭和十四年 小倉市丸橋合名会社支配人
- 一、昭和十八年 遠賀郡織維製品統制組合書記長
- 一、昭和二十五年 正金相互銀行中間支店、支店長
- 一、昭和三十年 中間社会福祉協議会理事
- 一、昭和三十年 中間身体障害者連合会々長

現 在

- 一、高野山真言宗本山布教師
- 一、高野山真言宗保育連盟顧問
- 一、社団法人身体障害者事業団名誉会長
- 一、財団法人福岡県警友会遠賀支部 相談役
- 一、株式会社渡辺紙店監査役
- 一、講道館指南仙波道場顧問(柔道三段)

参議院議員 小柳 牧衛



一、生年月日 明治十七年七月十三日生
一、本籍地並住所 新発田市上楠川三七八

〔学 歴〕

- 一、明治四十二年七月 東京帝国大学政治学科卒
- 一、〔政治歴〕
一、大正二年十二月 北海道庁理事官
一、大正六年十月 青島守備軍民政部事務官
一、大正十二年十一月 臨時震災救護事務局書記官

一、大正十三年三月 青森県内務部長

- 一、大正十三年六月 山口県内務部長
- 一、大正十四年八月 神奈川県内務部長
- 一、大正十五年九月 青森県知事
- 一、昭和四年七月 福島県知事
- 一、昭和六年四月 長崎県知事
- 一、昭和六年八月 兵庫県知事
- 一、昭和九年一月 新潟市長
- 一、昭和十一年二月 新潟二区衆議院議員当選
- 一、昭和十二年五月 " "
- 一、昭和十四年一月 文部政務次官(平沼内閣)
- 一、昭和十七年五月 新潟二区衆議院議員当選
- 一、昭和三十年五月 参議院議員当選
- 一、昭和三十年十二月 内閣委員
- 一、昭和三十一年七月 参議院議長当選
- 一、現 在 自民党総務、政務調査会治安対策、雪害対策、沖繩対策委員、参議院地方行政委、予算委、オリンピック準備促進特別委員

〔役 職〕

- 一、昭和石油株式会社相談役
- 一、財団法人曹洞宗檀徒宗門護持会会長

宗教政策

- 一、仏教精神を以て青少年の不良化を防止し、住み良い社会を実現する。
- 一、宗教心を昂揚し、文教の振興に努力する
- 一、宗祖道元禪師の御精神を以て貧困者の救済に鋭意努力する。



参議院議員 草葉 隆円

経歴の概要
一、本籍名古屋
市千種区春里町二丁目一番地
一、学歴 大谷大学卒業
一、政党 自由民主党
一、政歴

a 選挙

- 一、昭和二十二年五月第一回参議院選挙に当選
- 一、昭和二十五年六月第二回
- 一、昭和三十一年七月第三回

b 略 歴

- 一、参議院
在外同胞引揚特別委員長、外務委員、安保条約特別委員長
- 一、内閣
厚生大臣、社会保障制度審議会副会長、タイ国仏紀二千五百年式典政府代表
- 一、自民党
国会対策委員長、政策審議会、党総務、社会保障調査会副会長
- 一、団体関係
愛知県遺族連合会名誉会長、日本遺族会副会長、愛知県寺院共済会々長

私の主張

- 一、国家基礎の確立
- 1 宗教心の昂揚と文教の振興
- 2 憲法の改正
- 3 自衛体勢の確立
- 4 戦争犠牲者の優遇
- 二、外交の刷新強化
- 1 国際連合憲章の改正と国連の強化

- 2 経済協力を中心としたアジア共同体の推進
- 3 領土問題の解決
- 三、経済の安定向上
- 1 経済向上の跛行と格差の是正
- 3 中小企業、農林漁業の繁栄
- 4 低利融資の強化と国民負担の軽減
- 四、福祉国家の前進
- 1 社会保障の充実と児童手当の創設
- 2 医療制度の抜本的改革と所得保障の強化
- 3 環境衛生の整備

宗教を土台にした政治を

参議院議員
農林政務次官
中野文門



私は議場で総理大臣の施政方針の趣旨説明を聞いていた時、あるいは激しい野党の代表演説に耳を傾けている

中でも瞬間的にチラリと少年時代に過して来た古寺での昔の生活を思い浮べることがある。寒梅の咲く庭に面した禅堂での雲水生活のあれこれの思い出。脚下を照顧せよ。随処に主と作(な)れ。とかの言葉が自然に脳裡を去来する。バケツの中に何匹かの蟹を入れておくと、がさがさ音を立てて騒々しい。このような世の中に生活していると幽谷で蘭の香りをかぐような気分が恋しくなる。私は若いころ、東京市の社会局で人夫世話役を命ぜられ、日給一円二十五銭をもらって日雇人夫と生活を共にした。生れて始めて受けた報酬である。その後、東京少年審判所で全国最年少の少年保護司

として上野や浅草地帯の要保護少年と苦業を共にして来た思い出がある。初め社会事業家を志し、全日本私設社会事業連盟の常務理事となつて働いたが、その宗教を土台にした政治家となることに激しい希望を抱いた。昭和八年の春、三十歳で神戸の市会議員に当選し政治の場に出て勤続十七年、終戦後新憲法下初代の神戸市会議員となつた。爾来兵庫県議会議長から参議院議員として国政に参画している今日まで約三十年の歳月が流れるように過ぎた。

昭和十二年七月赤紙の召集令状をもらって神戸市会議場を離れ、丹羽部隊の一員として大陸の戦線に出動し関東軍や朝鮮部隊と共に戦つた。

長い筈でもぎとられるような寒夜の星を眺めて戦友と共に幾度か故郷を偲んだ。遙拝す吾れ元旦に生きてあり。北支那大原城で露営中、妻に宛てた私の年頭の一句である。思えば人生の浪々の中に春風秋雨六十年を生きて来たのだ。向上であつたか、向下であつたか政治と宗教の一致した理想の社会を求めて生き抜いて来たのだ。

略 歴

- 昭和二年三月、日本大学社会学科卒業
- 昭和三年以降民生委員、少年保護司、天王谷学園教官、全日本私設社会事業連盟常務理事
- 昭和八年四月、神戸市会議員
- 昭和十四年九月、兵庫県会議員
- 昭和二十二年五月、神戸市会議員
- 昭和三十年五月、兵庫県会議員
- 昭和三十一年七月、参議院議員

当選

○昭和三十四年七月、参議院の本会議に於て内閣常任委員長に当選就任。

○昭和三十五年八月、参議院より南北アメリカ、欧州並にアフリカ、等に派遣せらる。

○昭和三十六年七月、池田内閣に於て農林政務次官に任命。

○その他、全日本仏教会参与、兵庫県宗教連盟理事長、兵庫県仏教会長、神戸市兵庫区柳原町福海寺住職。

全国区選出

大谷 瑩潤

大谷瑩潤師は、東本願寺大谷光暢法主の伯父にあられ、宗門の元老として、さきには宗務総長として宗門行政にたずさわり、戦後は衆議院議員としてまた参議院議員に二回当選、国政に参画し、外地引揚特別委員会委員長、党総務社会保障制度審議会委員、皇室經濟會議予備委員、宗教法人特別委員会副委員長、国家公安政務次官などを歴任され、現在は参議院法務、予算各委員のほか各方面にわたつて多彩な活動をしている。最近とくに全仏教界の重要問題としてとり上げられている、墓地問題及び寺院の農地補償に對する問題等に仏教議員団の中心となつて活躍している。なお同師は同志会の重鎮である。



自民党公認全国区候補

今井 祐申



一、政治に教育に宗教心をうえつけ、それを通じて大家に眞の喜びを与えたい。

一、宗祖伝教大師の御遺訓にのつとり青少年の善導に最大の努力をなす。

一、婦人とその生活の具体的歩みを政治の中にも実施する。

一、人口の激増にかんがみ、日本人の海外移民の促進。

略 歴

明治卅二年東京都に生れ東京都台東区上野桜木町八に居住△昭和二年大正大学修学。△昭和四年財団法人社会政策学院卒業△昭和四年東叡山見明院住職△昭和五年雑誌「児童と家庭」を發行△昭和十年天台宗社会課長△昭和十五年天台宗總本山布教師△昭和十六年自坊見明院を青壯年のために修養道場とする△昭和廿二年駒込高等学校幹事△昭和廿四年群馬県庁嘱託△昭和廿五年茨城県西光寺長福寺兼務住職△昭和廿九年群馬県庁並びに比叡山延暦寺より南米各国移民事情調査のため渡伯、卅一年帰朝△昭和卅一年全国に移民事情の講演と資料展覧会開催△昭和卅一年寛永寺執事長△昭和卅二年下谷仏教会々長及び東京仏教同常務理事△昭和卅三年延暦寺企画部長△昭和卅三年世界仏教徒大会日本代表タイ国大会出席、大会副議長△昭和卅四年全日本仏教会宗教法人対策副委員長。友愛青年同志会上野道場創設。

群馬県上野学生寮創設△昭和卅五年天台宗總本山より権大僧正の位階特補△昭和卅六年延暦寺東京事務所長△昭和卅六年天台宗東京教区會議議長。

自民党全国区公認候補

川野 三暎



一、略 歴
本籍地 広島
県山県郡加計町
生年月日 明治四十三年三月三十一日

学 歴 広島修道中学卒、竜谷大学予科入学、東洋大学文学部卒

職 歴 本願寺派正念寺住職、本願寺派東京出張所次長、仏連国際部長、大藏大臣池田勇人秘書、本願寺派総務

現 職 財団法人同和教育振興会常務理事、本願寺派宗会議員、池田総理大臣秘書

なお浄土宗浄光会長で熱烈な仏教信者である一松定吉氏も出馬が予想されている。(順不敬略)

財団法人全日本仏教会昭和36年度歳入歳出決算書

(自昭和36年 4月 1日・至昭和37年 3月31日)

金	6,786,000	円也	入	入	予	算	高
金	6,948,438	円也	入	入	入	決	算
金	6,913,886	円也	出	出	出	決	算
金	34,552	円也	入	入	入	翌	年
			入	入	入	度	繰
			入	入	入	越	金

款	項	目	予 算 額	決 算 額
負 担 金			6,100,000	5,736,062
	各 宗 派 負 担 金	各 宗 派 負 担 金	5,000,000	5,114,877
	各 団 体 負 担 金	各 団 体 負 担 金	1,100,000	621,185
寄 附 金	寄 附 金	寄 附 金	200,000	490,000
未 納 徴 収 金	未 納 徴 収 金	未 納 徴 収 金	50,000	210,270
基 金 果 実	基 金 果 実	基 金 果 実	35,000	36,425
雑 収 入	雑 収 入	雑 収 入	400,000	447,204
繰 越 金	繰 越 金	繰 越 金	1,000	28,477
	合 計		6,786,000	6,948,438

款	項	目	予 算 額	決 算 額
事 務 所 費			4,096,000	4,157,153
	人 件 費		2,246,000	2,240,648
		役 員 手 当	90,000	90,000
		職 員 俸 給	1,422,000	1,421,500
		諸 給	514,000	510,775
		厚 生 費	170,000	168,373
		退 職 積 立 金	50,000	50,000
	事 務 費		850,000	918,930
		借 館 借 室 費	300,000	300,000
		通 信 費	300,000	349,645
		消 耗 費	40,000	41,057
		光 熱 費	20,000	13,160
		備 品 費	20,000	32,039
		印 刷 費	150,000	163,154
		雑 諸 費	20,000	19,875
	旅 費	旅 費	500,000	497,575
	関 西 事 務 局 費	関 西 事 務 局 費	500,000	500,000
総 務 局 費			1,070,000	1,065,549
	会 議 費		600,000	596,959
		理 事 会 費	81,000	81,000
		評 議 員 会 費	110,000	110,000
		各 種 委 員 会 費	200,000	197,699
		会 議 費	209,000	208,260
	共 通 事 項 処 弁 費	共 通 事 項 処 弁 費	220,000	219,028
	調 査 研 究 費	調 査 研 究 費	50,000	49,610
	渉 外 費	渉 外 費	200,000	199,952
組 織 局 費			960,000	1,052,781
	組 織 強 化 費		500,000	559,992
		組 織 強 化 費	200,000	210,252
		国 内 仏 教 徒 会 議 費	300,000	349,740
	教 化 費		180,000	179,459
		講 習 会 費	100,000	95,285
		教 化 諸 費	80,000	84,174
	弘 報 費		280,000	313,330
		機 関 紙 発 行 費	230,000	271,330
		宣 伝・報 道 費	50,000	42,000
国 際 局 費			500,000	489,068
	国 外 運 動 費		500,000	489,068
		海 外 仏 教 使 節 接 待 費	170,000	160,660
		世 界 仏 教 徒 文 化 交 流 費	100,000	100,000
		国 際 仏 教 運 動 費	230,000	228,408
雑 費	雑 費	雑 費	50,000	40,095
予 備 費	予 備 費	予 備 費	110,000	109,240
	合 計		6,786,000	6,913,886

理事会開催さる

昭和卅六年度決算を承認

全仏理事会は五月十四日午後二時三十五分から東京築地本願寺会議室にて二十四名(内委任十五名)の理事の出席を得て開かれ左の協議題について熱心に協議した。

協議題

①昭和卅六年度財団法人全日本仏教会歳入歳出決算に関する件
別所総務部長より五月七日開催の監事会の結果、承認を得た旨更に同日開催の常務理事会で承認を得た旨の報告が詳細に亘ってあり、全員一致で別掲の通り承認した。

②英文仏教百科大辞典編纂事業に関する件
石川国際局長より編纂事業の現在までの経過並に運営に対する経過概況について報告があり、本事業の移譲に関する鈴木学術財団との取り決め試案を朗読し、提案理由の説明をなした。なお阿部竜伝理事より左の質疑があり夫々確認された。

③セイロン国への英文原稿の送付は全仏を通じてすること。
④配本予約者(但し全額完納済みの者)に対しては、日本文及び英文を交付するものとする。なお上記について種々意見の開陳があったが、この試案のもとで当局に於て善処するよう決議された。

⑤講習会開催に関する件
狩野組織局長より八月二十日及二十一日東京都下八王子市在の大本山高尾山に於て開催する予定であり内容的には斬新な、現代感覚にマッチしたものにすべく準備

している旨の報告があり、日時、場所のみ了承され、内容的には当局に於て充分検討するよう一任され、会議は午後三時四十五分に閉会した。

出席者は左の通り(順不敬略)
金剛秀一、宮前鳳洲、宮崎文輝、高峰秀海(代理山本芳彦)、阿部竜伝、加賀美日聰(代理冠鍊宗)、中山理々、山中忍海(代理渋谷亮泰)、安藤寿雄、倉持秀峰、岡野正道、山本杉、塚原徳広、武田達誓、阿部慶昭、上野頼栄、末広愛邦、宮裡頭秀、間野敬重、長岡慶信、清水祐之、岩野真雄、福森宗碩、訓頼信雄の各理事。全仏当局から白山事務総長、栗本総務、狩野組織、石川国際局長、別所、吉井、柳各部長

なお署名委員は安藤寿雄、宮前鳳洲理事
宗教法人審議会
委員決定さる
去る五月十一日付、文部省調査局宗務課長近藤春文氏より、理事長金剛秀一氏宛第六期宗教法人審議会委員が左記の通り任命された旨通知があった。

金剛秀一(曹洞宗々務総長、全仏理事長)
阿部竜伝(真言宗智山派宗機顧問)

栗本俊道(浄土宗々会議員、全仏総務局長)
訓頼信雄(真宗大谷派宗務総長)
香取茂世(香取神社宮司)
高松忠清(住吉大社宮司)
諸井慶五郎(天理教代表役員)
宋野健式(扶桑教管長、日本宗教連盟理事長)

渡辺善太(日本基督教団正教師)
御木徳近(イーエル教団教主新日本宗教団体連合会理事長)
庭野日敬(立正交成会々長)
下村寿一(前宗教法人審議会々々長)

大塚市助(東京外国語大学教授)
稲田清助(国立近代美術館長)
岸田英夫(東京大学教授)
(備考)

○宗教法人法第七十一条第二項
宗教法人審議会は文部大臣の諮問に於て宗教法人に関する認証その他この法律の規定によりその権限に属せしめられた事項について調査審議し、及びこれに関連する事項について文部大臣に建議する。

○同法第七十五条
委員は、非常勤とする(任期二年)

ソ連墓参団に

僧侶が同行

昨年にひきつづき、ソ連にある日本人墓地参拝の遺族団は政府の派遣で今夏出発することになったが、遺族の要望によって僧侶一人が同行することになり、その選出を全仏に一任されたので近く決定されることになっている。

布哇仏教の展望(上)

日本仏教の布哇伝播は、千八百二十年(文政三年)、米国キリスト教伝道協会によるキリスト教宣教師開始に遅れること六十一年、即ち千八百八十七年(明治二十年)西本願寺派僧侶日蒼竜師のホノルル開教を以て嚆矢とする。爾来、今日見るが如き布哇仏教の繁栄は日本人布哇発展の歴史と常に行動を共にし、各宗派遣の開教使及び邦人開拓民の並々な血と汗の結晶である。以下は現在浄土宗所屬開教使としてホノルルのハワイ浄土別院へ勤務している松濤弘道師より特別に寄稿されたものである。なお師は元全仏国際局主事として活躍していた方である。

一、布哇仏教開拓期

日本人布哇発見の端緒は記録によれば、千八百四年(文化元年)仙台藩の船頭津太夫が、一行四名と共に布哇に漂着、其の後公式には千八百六十年(万延元年)日本最初の遣米大使新見豊前守正興が勝海舟、福沢諭吉等を従えてホノルルに寄港、布哇官民の誠熱なる接待を受けたことに齎賜する。爾来日布関係は漸次開展し、千八百六十八年(明治元年)には日本人百五十三名が布哇上陸、開拓移民の草分けとなつて以

来、官約移民として千八百九十四年(明治廿七年)迄に総数二万九千百三十九名が来布した。引続き契約移民及び自由移民として来島した者は後を絶たず、その大部分は広島、山口、熊本、新潟、福島等から一攫千金を夢みて入布したものである。此等邦人労働移民は折から活況の白人経営蔗糖会社に雇用され、中国人、プエルトリコ労働移民と異なり勤勉に使役し好評を博したとは云え、各人に移

民としての準備と覚悟にかけ、不当なる労働賃金と条件に甘んじていた。此等先駆者は耕地の貧弱極まりなき開拓村に寄居を共にし、朝四時起床、六時就業、夜六時終業で一日の労働六十時、日曜休日も収穫時には労働を強制され、白人雇主の鞭の下で牛馬の如く酷使された。開拓村にあっては何等の娯楽、衛生設備とてなく、飲酒、賭博、喧嘩、淫売の果と化、博徒醜業婦等の不良分子が跋扈し、善良なる開拓民は戦々兢兢々、惨憺たる有様であったと云う。

かくする中に曜日蒼竜師を始めとし、各宗の開教使が相次いで渡来し、敢然として布教を開始した。耕地を巡回しては殺伐な移民を説得し、ひたすら開拓民に精神的な慰安を与えた。中には仏像を背に耕地に巡錫しては罵倒され、追出しを食つても諦めず、遂にその熱意を買われて此処に拠所を得て、ささやかながらも「大日本伝来阿弥陀如来奉安所」と大書せる掲札を掲げ、仏教会堂を設けた話も伝わっている。しかし中には疑似布教家も続出し、移民を瞞着愚弄しては貴い寄附金を基金募集と称して詐取し、雲隠れする悪漢も輩出するに及んだのである。

悲しみも新たに 初七日を迎え

三河島事件遭難者慰霊祭

全仏、大本山総持寺共催で執行

一瞬のうちに百六十名の生命を奪った国鉄三河島駅の惨事は、国鉄未曾有の重大事件として内外に非常なショックを与えたが、全仏では曹洞宗大本山総持寺との共催により遭難者の初七日にあたる五月九日午後一時より、事故現場の三河島駅近くの広場において、盛大な慰霊祭を執行した。

大本山総持寺貫主孤峯智瑠禪師を先頭に雲水四十名は、総持寺婦人会員五十名とともに午後一時に祭場へ到着し、悲痛な雰囲気の中で孤峯禪師の導師により読経がはじまった。祭壇には全仏、大本山総持寺、荒川仏教会、東鉄等から贈られた花輪が一杯飾られ、次々と焼香に現れる附近の人々によって、やがて飾りきれないほどの花束でうづまされた。全仏大谷会長の弔辞が金剛理事長によって朗読された。遺族も次々に焼香にあらわれ、やがて降り出した雨は、事故現場の線路わきに飾られた花束を濡らし悲しさをひとときわ深め線路を通る電車の窓からは盛んに合掌する多数の乗客の姿が見られた。

なお最後に荒川仏教会長が殉難者の冥福を祈り閉式のことばを述べ、午後三時半頃慰霊祭は厳粛裡に終了。全仏から金剛理事長以下全員が参列し亡き人の冥福を祈った。

なお日本国有鉄道主催の合同慰霊祭は五月十六日午後二時から東京

京築地本願寺本堂において盛大に行われ、十河国鉄総裁以下多数の国鉄幹部が出席し全遺族の悲しみの中に厳修された。全仏は仏前に生花を捧げ遭難者の冥福を祈った。祭壇には天皇、皇后両陛下からの花輪が飾られ読経と香煙のむせかえるような中に悲しみをこらえる遺族の姿が参列者の同情をよんだ。当日は都内観音寺、常照寺等から十名の式衆が読経に参加し、全仏からも石川局長、柳、吉井、別所各部長、門屋主事、岩野常務理事が夫々法衣を着用して列席し、また大本山総持寺、東京仏教団からも多数が参列し読経、焼香をなした。亡くなった一六十名の冥福を行った。

千葉県仏教会(会長荒木照定師)では四月廿四日午前十時半より成田市の大本山新勝寺信徒会館において各市郡町の代表者五十名が集って総会を開催し熊野理事長の挨拶にはじまり、昭和廿六年度決算承認の件、本年度予算案等について熱心に協議した。

千葉県仏教会総会開催

当日は全仏別所部長が農地、墓地問題等について報告労々要請をなし、最後に第十回大阪大会に対し多数出席方の要請をのべ正午すぎ散会した。

○日蓮宗では三月十一日から会期を一日延長して十四日迄総本山身延山久遠寺に於て第十一回定期宗会を開き次のような主なる事項を協議した。

即ち(1)宗制改正：これについてはかねてから宗会議員、宗務当局学識経験者から成る宗制調査研究会で検討してきたが、これ迄管長が公選で宗務総長がこの管長の任命であったのを管長が推薦されることとなり、総長は僧正以上の住職の中から宗会が選出することに改められた。もともと代表役員が総長であつたのでそこで従来は管長の重要事項の諮問機関であつた宗務顧問会を総長の諮問機関にも改めた。(2)本年度の伝道車による布教を北海道地区、四国地区の予定とした。(3)宗務財源の一役をはかられている日蓮宗宗務院ビルの建設の具体

仏教界ニュース

強化等に努める事とした。また来馬道断理事長の辞任に伴い、新しく曹洞宗々務総長に選ばれた金剛秀一が新理事長に就任した(三三歳)。なお第十回全日本仏教徒会議は来る六月一、二の両日に亘り夫々大阪東本願寺難波別院、四天王寺に於て団地、勤労大衆、都市計画などと寺院といった「都市における寺院活動」を中心テーマとして開催される事になった。

(4) 布教教学研究所設置の要望(5)核実験禁止の要請。(6)立正育英会財団の発足等である。

宗大谷派前宗務総長宮谷法含は一ヶ月一日(八十歳)、大正大学教授星野俊英は二月十五日(六十三歳)、大谷大学名誉教授大須賀秀道は二月十八日(八十六歳)、元高野山真言宗管長和田性海は三月九日(八十四歳)、大正大学教授佐藤賢順は三月二十八日(八十二歳)は夫々死去した。

○創価学会では機関紙「聖教新聞」を本年度から火木土の週三回刊行し、東洋学術研究所を一月設置した。二月九州に六支部(東長崎、別府、唐津、玄海、筑前、築前)を結成し、三月高松に四国本部の落成式を行った。またこのほど学会では墓地用の土地の買収を交渉していることを明らかにした。

豪州より中学生の図画送付依頼
オーストラリアのメルボルン画学校より、今回在メルボルン日本総領事館を通じて、同校の研究資料とするため日本の仏教系中学生の生徒の仏教画送付の依頼があつた。全仏国際局では直ちに全国の仏教系中学校長あてに依頼状を送り協力方を依頼した。八月一杯にはメルボルンへつくように準備している。

○全日本仏教会では三月五日顧問、参予会を東京で開き、今後の有り方について協議し(1)現在、全仏の当面する諸問題が国会政治に關係するものが多いので国会対策委員会を強化する。(2)「全仏通信」の編集の充実。(3)財政確立と組織

○西本願寺では遠忌事業の一つである同和教育振興会を二月発足させた。

○創価学会では機関紙「聖教新聞」を本年度から火木土の週三回刊行し、東洋学術研究所を一月設置した。二月九州に六支部(東長崎、別府、唐津、玄海、筑前、築前)を結成し、三月高松に四国本部の落成式を行った。またこのほど学会では墓地用の土地の買収を交渉していることを明らかにした。

日系人代表百七十名が列席

第一回 海外日系人物故者慰霊法要

築地本願寺本堂で盛大に挙行

第三回海外日系人大会は五月四日より八日に亘って東京赤坂の都市センターにおいて海外から五百八名の代表が出席して大々的に開かれたが、全仏では過去において海外各地で物故した多数の日系人物故者の霊を慰めるため、五月六日午後一時から東京築地本願寺本堂において盛大に開催した。

当日は七十名の海外代表を招待するよう準備していたが、その人数を遙かに越えて百七十三名の日系人が定刻には広い本堂をうづめつくした。式は築地本願寺副輪番導師のもと、先づ柳部長の司会ですすめられ、大谷会長代理として出席の清水谷恭順副会長が弔辞を朗読し、ついで岩重日系人連絡協会理事長が追悼のことばを述べ、読経の声が流れる中を、まづ清水谷副会長が焼香に移り、それにつづいて出席の海外日系人全員が合掌の中に焼香を行った。終つて白山事務総長が慰霊祭の委員長として閉会の辞をのべ、引続いて代表全員は歓迎茶話会の講堂へと歩を運んだ。

野山局長の司会で歓迎会が開かれ、白山事務総長が歓迎のことばをのべ、ついで全日仏婦の広瀬寿美子氏が挨拶をした。終つて謝辞として、明治四十一年に第一回南米移民団の一員として渡り、今回五十二年ぶりになつかしの母国へ

帰つて来たと言ふアルゼンチン代表のオキ氏(福島県出身)から感謝のことばがのべられ、ついでメキシコ代表木村さとし氏(山口県出身、曹洞宗信徒)、北米代表田辺栄二氏(岡山県出身、浄土宗信徒)等が壇上に立って感謝のこと



ばをのべた。最後に岩重日系人連絡協会理事長が代表に対する激励と、全仏へ感謝の辞をのべ、栗本局長の閉会の辞で午後三時頃散会した。

なお当日出席した海外代表へは左の各宗派より寄贈された各種仏教布教書、パンフレット、案内書、絵はがき等を記念品として贈り非常に喜ばれました。茲に謹んで御礼申し上げます。
浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、妙心寺派、天台宗、本門仏立宗、

高野山真言宗、浄土宗、曹洞宗、日蓮宗(順不同)

ウエサカ祭名古屋、仙台で

今年もウエサカの月を迎え、各地で祭典が開かれているが、五月十八日には午前八時半から名古屋市の覚王山日泰寺奉安塔前において愛知県知事、名古屋市長出席のもとに愛知県ウエサカ讃仰会主催

タイ僧伽病院長来日

仏教、衛生事情を視察

タイ国衛生次官サンガ・ブレングワニ氏とタイ国立僧伽病院長ヴィラー・マクドアンケオ氏の両名は、我國の衛生事情、仏教事情視察のため、五月十三日予定よりおかれて午後七時二十分羽田空港着のタイ航空機で来日し、外務厚生省、在日タイ大使館等の出迎えをうけ東京駅八重洲口の国際観光ホテルへ入った。

全仏からは藤井真水国際委員会副委員長、柳国際部長、鎌田主事が空港へ出迎えた。

翌十四日午後二時には両氏はそろつて、大使館員同行のもとに築地本願寺に参詣し、全仏へ来日の際挨拶をなし、金剛理事長、白山事務総長石川国際局長、藤井国際委員会副委員長、中山理々理事、柳部長らと約三十分亘つて懇談した。

その後、一行は厚生省側の取計いで医療器具製造、病院等を視察していたが、十六日午後二時半に仏教系病院として有名な東京江東区のあるか病院(院長長谷川俊明博士)を訪れ、長谷川院長の説明を全仏の藤井真水国際委員会副委員長との通訳により熱心に聴き、終

により盛大な祭典が挙行された。

また仙台の聖和学園仏青マヤ会主催のウエサカの集いは、五月廿一日午後二時半より五時に亘り開かれ、ついで午後六時よりウエサカ、パーティを開催し、若い人を中心にして聖火行道を行い盛会であった。

全仏では取りあえず祝電を打って成功を祈った。

つて院長をはさんで懇談し、午後四時四十分頃帰途についた。

全仏の両氏に対する歓迎午餐会は、十八日正午から東京銀座の三笠会館で開かれ、石川国際局長が歓迎挨拶し全仏へのお土産としてブロンズ製の積尊像一体が贈られ、終つてサンガ衛生次官とヴィラー病院長はそれぞれ感謝のことばをのべ、和気あいあいの中に午後二時に散会した。当日は全仏理事、国際委員をはじめ、最近全仏からタイを訪れた仏教徒が約三十名出席して盛況であった。

一行は関東での旅程を終えてから大阪、京都方面を視察し五月三十日空路台北へ向う。

印度新首相ラダクリシュナン氏へ祝電を送る

このほどネール首相に代り新しく印度首相に就任されたラダクリシュナン元副大統領に対し、全仏では大谷会長名により祝電を送りその成功を祈った。

なお印度ジャンペイにおいて第一回ブッダジャンペイの祭典が五月十八日に盛大に開かれたが、全仏では大谷会長名を以て祝電を送った。

仏教教育問題につき懇談

来日のタイ比丘らと

このほどアジア財団の招きで日本の教育事情視察のためタイのプラ、タンマラッチャヌワトラ比丘外二名の教育家が来日し、五月六日午前十時半に新装成った東京神田寺(友松円諦主管)に於て、全仏国際委員長村野宣忠師、同副委員長藤井真水師、平等通昭師らと共に会食を共にしながら、種々仏教教育問題を中心に懇談した。この会合は仏教徒文化交流協会(理事長小谷徳水氏)が主催したものである。

NHKの海外日系人慰霊放送

高野山で執行に決定

例年の通り開かれているNHK主催、全仏協賛の、海外日系人物故者盂蘭盆法要の実施放送は今年高野山金剛峯寺の絶大な御協力を得て行われることに決定し、七月十五日の盂蘭盆にアメリカ北部、西部、ブラジル、中南米方面、ハワイ等へ放送されることになり、全仏国際局では直ちに準備のり出した。

宇都宮日網上人逝去

中山妙空管長として長年に亘り教界発展のため尽力されてきたが去る五月五日薬石の効無く遷化された。行年九十一歳の高僧であった。全仏では直ちに弔電を送り冥福を祈った。なお密葬は五月十一日午前十時より大本山法華経寺にて厳修された。

